

5 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

平成29年度高岡南高校アクションプラン - 1 -	
重点項目	進路支援
重点課題	(1) 3年間を通して挑戦する気持と諦めさせない心を育成するとともに、全校協力態勢のもと粘り強く最後まで指導し、生徒の第一志望校(願書出願をした大学の中で最も行きたい大学)合格を支援する。 (2) 一人一人の生徒を理解して実態を的確に把握した上での学習習慣の育成や進路指導が重要という意味で、面接指導の充実を図る。
現 状	生徒の持っている素質や能力からすると、十分に生かされたとは言い難い進路結果である。安易な方向に流れて学習が継続できなかつたり、目標を諦めるのが早く最後まで挑戦する気持を持ち続けられない生徒が少なくない。
達成目標	(1) 生徒の第一志望校(願書出願をした大学の中で最も行きたい大学)合格率
	(2) 生徒1人あたりの面接実施回数(担任、副担任、授業担当者)
	卒業生数の65%以上
	1・2年生：6回以上 3年生：12回以上
方 策	(1) 学習時間のスタンダードは、<平日：1年・2時間、2年・3時間、3年・4時間><休日：1年・4時間、2年・6時間、3年8時間>とし、全体に周知を図りながら学習時間を位置づけた生活習慣を身につけさせる。なお、3年生は体育大会後は平日5時間、休日10時間を標準とする。 (2) 1年生の初期指導を重視する。また、面接週間以外に校外模試の自己採点時での面接を必須とするなど面接指導を通して生徒の気持ちを前向きにさせる。 (3) 高い志望校の設定を指導しながらそれを貫かせるように支援する。また、そのことを通じて挑戦する気持と最後まで諦めない心の育成を図る。 (4) 校内外テストの成績状況や結果を分析し、今後の指針となるような資料を作成するとともに校内全体で各学年の情報を共有できるように努める。 (5) 全校協力態勢を確認しながら3年生の進路支援の充実を図る。特に、センター試験後の2次試験対策を強化し、生徒の第一志望校合格を支援する。

()評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

平成29年度高岡南高校アクションプラン - 2 -	
重点項目	学校生活
重点課題	自主自律の精神に満ちた品格のある生徒集団の形成
現 状	礼儀、時間厳守、身だしなみなどの点で、南高校生としてふさわしい品格が身につけている生徒が増えている。多くの生徒が主体的に関わる活動が増え、活発に取り組む生徒が増えつつある。
達成目標	(1) 礼儀、時間の厳守、身だしなみを中心に、南高校生としてふさわしい品格が身につけていると感じている生徒の割合 80%
	(2) 学校生活に主体的に取り組んでいると感じている生徒の割合 80%
方 策	(1) 日頃の登校指導や声掛けの中で、あいさつ・身だしなみ、時間厳守等の意識の向上を図る。 (2) 部会の定例化や学年との連携を密にすることで、現状の学校生活の問題点や情報を共有しながら、凡事徹底がはかれるように互いを尊重し協力して指導する。 (3) 服装頭髪指導や自転車鍵かけ点検などを定期的に全体指導するだけでなく、日頃から継続して学校全体で指導する。 (4) 生徒が主体的に校訓の理念を理解し、それにふさわしい行動ができるよう、執行部や校紀委員会を中心に学校生活のさらなる充実につながる活動を行う。 (5) 各行事の目的、テーマを明確にし、できるだけ多くの生徒が企画、運営に関わることができるように工夫する。 (6) 外部講師や保護者から着こなしやマナーについて指導していただく機会を設ける。(マナーセンスアップ教室、さわやか運動など)

()評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

平成29年度高岡南高校アクションプラン - 3 -	
重点項目	学校の活性化
重点課題	将来への大きな志を持ち、意欲的に学び活動する生徒の育成
現 状	平成28年度の実績 ・キャリアデザイン・プロジェクトSの実施 ・土曜授業での公開授業 ・海外研修の実施
達成目標	(1) キャリアデザイン・プロジェクトSの実施により、進路目標が明確になったという生徒の割合 70% (2) 土曜公開授業への参観者 150人 (3) 海外研修への参加者について、将来の進路についてより深く考えるようになった積極的に行動できるようになったという生徒の割合 100%
方 策	(1) 1学年のキャリアデザインゼミナールについて、地域や保護者の協力を得て、社会や自らのあり方を考えさせ、将来像を描きやすい講座を設定する。 (2) 2学年の探究的な活動では、大学との連携により大学の研究内容に触れる機会を設け、進路目標を具体化できるようにする。また、グループでの発表の機会を互いに評価することによって、達成感を持たせる。 (3) 海外研修の内容について、異文化交流を通じて、自主的に考え行動できるプログラムを設定し、積極的に活動させる。 (4) 各学年、教科などとの連携を図り、生徒の活動の支援ができるようにする。

()評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

平成29年度高岡南高校アクションプラン - 4 -	
重点項目	ボランティア活動
重点課題	1学年：自発的なボランティア意識の向上 2学年：自発的なボランティア意識の向上 3学年：生徒のボランティア意識の向上
現 状	1学年：これまでのボランティア活動への参加が学年の5割程度 2学年：生徒会企画のボランティア活動への参加が学年の3割程度 3学年：ボランティア活動への参加が学年の2割程度
達成目標	1学年：全クラスがホームルームでボランティア活動を計画し実践する。 2学年：自主的なボランティア活動への参加が学年の5割 3学年：ボランティア活動への参加が学年の3割
方 策	1学年：①身近なボランティア活動をクラス単位で企画し実践する。 ②生徒会のボランティア企画への参加を促す。 2学年：①生徒会のボランティア企画や部活動、クラス単位での積極的な参加を促す啓発活動を行う。 ②校内外のボランティア活動の情報提供に努める。 3学年：①ボランティア活動が実践できるようホームルーム計画を立てる。 ②生徒会のボランティア企画への参加を促す。

()評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

重点項目	教師力向上
重点課題	教科、学年、年代を超えて学び合う組織作り
現 状	(1) 各教員がそれぞれに指導力向上を目指して日々努力を重ねているが、教科、学年、年代を超えた学び合いの機会が少ない。 (2) ここ数年で増加した若手教員に対する、学校全体での育成体制があまり整っていない。
達成目標	(1) ・互見授業を参観した回数(2回以上)、参観された回数(2回以上) ・互見授業の相互参観や意見交換を通して、学びがあったと感じる割合(80%以上) (2) 若手教員と中堅教員が相互に学び合う校内研修の実施回数 2回以上
方 策	(1) ①互見授業期間に各教科1名以上の指定公開授業を行う。 ②他教科の授業を1回以上参観する。 ③各教員が、自分の授業の工夫や見所を発信する。 (2) 年次研修を活かした、若手教員と中堅教員が学び合う校内研修を16年次教員が企画・運営する。

()評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった